

クロゲンゴロウ *Cybister brevis* Aubé

【選定理由】

かつて平野部から山地にかけて普通に見られた種であるが、生息地となる各種水域が開発等によって急速に失われ、県内ではごく限られた地域に残存しているに過ぎない。

【形態】

体長 20～25mm。体は卵形。背面は緑色あるいは褐色を帯びた黒色で光沢がある。体下面は暗赤褐色で、腹部第 3～4 節の両端に黄褐小紋を具える。上翅には 3 点刻列があり、翅端近くに小さな黄褐紋がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

かつては平野部の水域に多く見られたが、現在では丘陵に残された僅かな池にのみ生息。

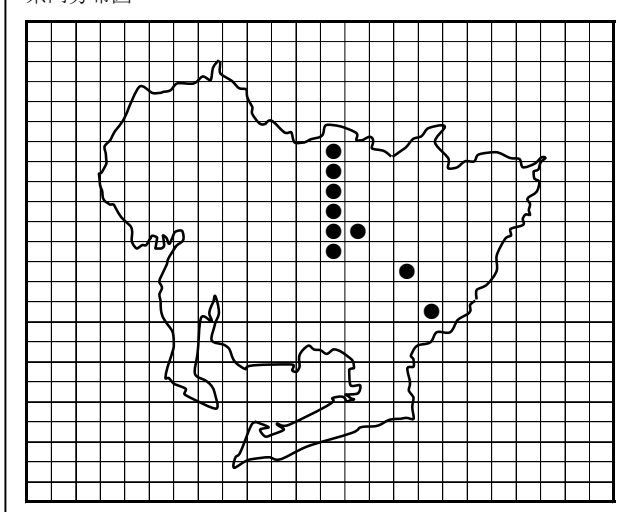
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

中国、朝鮮半島。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

水生植物の生えた池沼、水田などかなり広い水域に適応している。幼虫は 5～8 月に見られ、成虫は 8～9 月に出現し、成虫で越冬する。

【現在の生息状況／減少の要因】

平野部での自然池の亡失、圃場整備など水田の構造変化によって非常に少なくなった。

【保全上の留意点】

残っている自然池の保全や河川敷内の遊水池の設置など、多様性に富んだ止水環境を作ることが望まれる。また、オオクチバスなど侵略的外来種は本種など止水性の昆虫類にとって大きな脅威となるので、駆除を急ぐ必要がある。また、ネオニコチノイド系農薬の影響について調査する必要がある。

【関連文献】

北山 昭ほか, 1993. 日本のゲンゴロウ: 153. 文一総合出版.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)